

## 研修報告書 No.14

所 属： 横浜市立大学附属病院 研修医  
氏 名： 江島 隆平  
研修先： 梶原病院、杉ノ川診療所

### 梶原病院での地域医療研修を終えて

平成 31 年 2 月 4 日～平成 31 年 3 月 1 日までの 1 ヶ月間、梶原町立国民健康保険梶原病院にて地域医療研修を行わせていただいたので、その内容を報告させていただきます。

梶原町は高知県の西部、愛媛県との県境に位置する山合いの町で、町民は約 3500 人で、町内には今回主に研修させていただいた梶原病院の他に、四万川診療所、松原診療所の 2 つの診療所がありました。

梶原病院に来て最初に抱いた印象は、想像していたよりもしっかりと設備が整っているということでした。梶原病院には MRI はありませんが CT、レントゲン、エコー、内視鏡、透視室などが揃っており、通常の診療などを行うには十分でした。ただ、診療所では尿検査しかできず、画像検査や採血検査は梶原病院で行う必要があるということは、高齢者が多く、運転が必須な土地柄においては不利だと感じました。

診療内容は外来診療から、救急対応、病棟管理、往診、診療所での診察など多岐に及びました。救急対応では初日から外傷患者が来院し、愛媛県の病院まで転院搬送となっていたことが印象深く、県を超えた医療体制が築かれていることには驚きました。病院の先生方は内科医として勤務されていましたが、基本的な創傷処置などは自ら行われていました。日々の外来診療でも創傷処置を行うことが多く、地域医療の現場では内科という枠を超えた知識が求められるのだと実感しました。

診療所での診察は週に 3 回行われており、梶原病院から派遣された医師や、診療所勤務の医師により支えられています。基本的には地域に住まわれている方の定期処方が多いのですが、中には鎮痛のための注射や、振動病に対するリハビリテーションが行われていました。

また、診療所からも梶原病院からも遠く、受診が困難な患者に対しては月に 1 回の頻度で訪問診療が行われており、高知県内の場合もあれば、県境を越えて愛媛県の患者を診ることもありました。

高知市内など、県中心部は病院が多数存在しており医療は手厚いと感じましたが、山間部などのいわゆる過疎地域においては最低限の診療設備を備えた病院を軸にして診療所などと連携を行い地域の医療に貢献しているのだと実感しました。また、救急搬送には 1 時間ほどかかることも多く、ドクターヘリの運用もなされていて、山間部ではあるが迅速な搬送が

可能である点は都市部にはないものだと感じました。

研修内容としては日々の外来診療の他に往診への同行、入院患者の診療が主でした。外来診療は先に述べた救急対応や創傷処置の他に、定期外来の外来医として診療を行うことが週1回ありました。今までに救急外来以外での外来診療経験はほぼなかったため、かなり貴重な経験となりました。また、往診などへの同行は地域医療研修ならではであり、できるだけ同行させていただきました。地域の実情を肌で感じ取ることができるため最も有意義な時間でした。

加えて、CT やレントゲン装置の操作、臨床検査（採血）を自ら担当するなど自分が所属している研修病院では経験できないことを数多く経験でき、今後の医師人生において良い経験になりました。

ただ、当直業務がなく地域における夜間救急診療を経験できなかったことは残念でした。地域においてはどの程度の重症度で入院、転院などの判断をするのかを学ぶ場がもう少しあればと思いました。

今回の地域医療研修では大学病院での研修では経験できないことを経験できて非常に勉強になりました。大学病院などの高度な医療を提供している病院では治療に主体を置いて医療にあたっており、退院後の生活やフォローアップなどにはあまり関わってきませんでしたが、地域医療の場ではそういった患者のフォローが主であり患者さんの退院後の生活を感じ取ることができました。福祉との関わりも密接であり、地域全体で患者を支え診ているという意識を強く感じられました。

今回このような貴重な経験をする機会をくださった高知医療再生機構の方々や、梶原病院の先生方、スタッフの方々に感謝には感謝しております。

以上で研修の報告とさせていただきます。